

杉山氏が5選

菊池氏を振り切る

むつ市長選 投票率72.19%



5選を果たし祝福の花束を受ける杉山氏。午後10時58分

任期満了に伴うむつ市長選挙は三十日投票が行われ、即日開票の結果、無所属で現職の杉山肅氏(65)＝自民、保守推薦＝が一万二千三百十五票を獲得。無所属で新人の前県議、菊池健治氏(66)と同じく無所属新人の弁護士、石橋忠雄氏(56)を振り切り5選を果たした。菊池氏との差は千八百余票。投票率は七二・一九％で前回は二四・五九ポイント上回った。

今回の選挙は、全国で初めての原発の使用済み核燃料中間貯蔵施設の誘致の是非を巡って、推進の立場を取る現職と「凍結、住民投票実施」を掲げる菊池氏、「白紙撤回」を求める石橋氏の争いとなった。

杉山陣営は、過去三度の選挙が楽勝だったこと

もあって後援会組織の緩みもあったが、両新人の激しい追い上げに危機感を募らせ、推薦した自民党県連、越前陽悦県議、自民党むつ市支部の中新鉄男前県議、むつ市議団十四人、山崎力参院議員、江渡聡徳前代議士の支援を受けて態勢引き締め成功。多選批判や健康不安説による票の目減りを最小限に抑え5選を果たした。

菊池氏は、現職の中間貯蔵施設誘致は独断だと厳しく批判。多選阻止を目指したが「凍結」から「住民投票実施」へと変えたことが今一つ浸透せず票は伸びなかった。

石橋氏は「白紙撤回」で一定の評価を得る善戦だったが、出馬の遅れと保守同士の激しい競り合いに埋もれた格好だ。